

営農情報

水稻の 土づくり

米作りは、まず土づくりからです。冬の時期に有機物や土壌改良資材の施用により、健全な稲を育て、良質米の生産につなげましょう。

生させ、生育障害や根腐れが起きます。稲わらのすき込みは、できる限り年内に行いましょう。

◆**有機物の施用**(稲わらの還元)
稲わらは最高の有機質資材です。石灰窒素と併用で堆肥化しましょう。

稲わらを早く腐らせるには、微生物・温度・水・窒素が必要になりますので、石灰窒素(10aあたり20キロ程度)を稲わらと一緒にすき込みましょう。稲わらは、乾田では全量(10aあたり500キロ程度)、半湿田では半量をすき込みましょう。

田植え時期までに稲わらを腐らせておかないと、田植え後に稲わらが腐るため、元肥の窒素を吸収するほか、有毒ガスを発

◆土づくり資材の施用

水稻は「ケイ酸植物」といわれるように、10aあたりに窒素の10倍もケイ酸を吸収するため、天然供給量だけでは足りず、毎年ケイ酸を含む資材を投入し、ケイ酸の補給をする必要があります。

・**ケイ酸**は、生育の初期から成熟期まで多く吸収されて、稲の体を強くし、病害虫の侵入を防ぐ効果が期待できます。また、葉が直立して光合成が盛んになり、品質をよくします。

・**リン酸**は、稲の分けつと根の伸長を促し、初期に多く吸収されますので、土づくり・元肥時に施用しましょう。リン酸は土

の中の微生物を繁殖させ、有機物を腐らせる作用があります。

・砂質田や極端に水もちの悪い田では、ケイ酸だけでなく、鉄分やマンガンなどの微量元素や腐植、石灰、苦土、加里などが流されて欠乏しています。特に、鉄分が欠乏すると、土壌に硫化水素が発生しやすくなり、根腐れの原因となり、いわゆる「秋落ち」が生じる可能性がありますので、鉄分を含む資材を施用しましょう。

土づくり資材の施用で土に活力を与えましょう。下記施用例を参考にしてください。

◆耕起と深耕

水稻の根の大部分は20センチまでにあります。作土が浅いと、根の伸長域がせまくなり、枯れ上がり、倒伏しやすい状態になります。収量、品質ともに影響があります。

うね盛り耕起と深耕をすることにより、土壌の排水を良くして稲わら等の有機物の分解を促進します。

トラクター等の速度とロータリーの回転数を遅くして、15〜20センチ程度に深耕しましょう。

土づくり資材(施用例)

例1 普通田 (省力タイプ)	とれ太郎 3〜4袋/10a	とれ太郎は、ケイ酸の吸収性の高い新しい省力タイプのリン酸を含む土づくり肥料です。
例2 普通田 (省力タイプ)	ニューみのりアップ 5〜10袋/10a	砂質田(秋落田) 農力アップ 3〜5袋/10a
例3 普通田 (省力タイプ)	ニューケイカル 5〜10袋/10a	と ようりん 2袋/10a 又は リンスター 1〜2袋/10a 又は 重焼リン 1〜2袋/10a
砂質田 (秋落田)	ミネカル 5〜10袋/10a と ケイ酸加里 1〜2袋/10a	



天 秤 座
9/23〜10/23

【全体運】 フットワークが軽くなり、チャレンジ精神が旺盛になる月。行動範囲を広げていけば、うれしい驚きに出会えそう
【健康運】 スポーツを始めて。気分転換にも効果的 【幸運の食べ物】 サバ